



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



写真 ベニマシコ/柳町邦光氏撮影 (2014年2月6日)

福井の自然史情報

サルにちなんだ鳥「ベニマシコ」

平成28年の^{えと}干支はサルです。サルは、古くから私たち人間と深く関わってきた動物で、その名前にちなんだ動植物も多くあります。「ベニマシコ」などマシコと呼ばれる赤い羽を持つ鳥の仲間も、サルと関わりがあります。マシコは漢字で「猿子」と書きます。猿子はサルの古い呼び方で、マシコという鳥の名前は、羽色がサルの顔のように赤いこと、あるいは顔がサルに似ていることが由来だと考えられています。



中面に平成28年の干支「申」、裏面に野鳥についての解説があります。

平成二十八年の干支

申

(サル)

平成28年の干支であるサルは、昔から人間と深く関わってきた身近な動物で、様々な伝承の中にも登場しています。ここでは、来年の主役であるサルと、サルにちなんだ名前を持つ天体や動植物を紹介します。

「干支展・申」

博物館では平成27年12月19日(土)から平成28年1月31日(日)まで、平成28年の干支であるサルの剥製や骨格標本のほか、サルにちなんだ動植物の標本などを1階ホールにて展示します。ぜひ、お越しください。



クリを食べるニホンザル
2013年9月27日 福井市足羽山にて撮影

ニホンザル

ことわざや昔話にもよく登場するサルは、私たちにとってなじみ深い動物です。それは人間に姿形が似ており知能が高く、親しみやすい存在と思われてきたためだと考えられます。

世界中には、370種以上のサルがいますと考えられていますが、日本に生息するのはニホンザルのみです。ニホンザルは、分布の南限を鹿児島県屋久島、北限を青森県下北半島とする日本固有種で、化石記録や遺伝子を用いた研究結果から、63万～43万年前の氷河期の海退により日本列島と大陸が陸続きだった時代に日本に渡ってきたと考えられています。ニホンザルは、サルの仲間としては例外的に尻尾が短いという特徴を持っており、これは寒冷な気候に適応したものと考えられています。多くが熱帯に生息するサルの仲間のうち、ニホンザルは最も高緯度の寒い地域に生息するサルなのです。

福井県では、嶺南地域に多く生息しており、現在も続く生息数の増加と生息域の拡大に伴い農作物への被害も深刻化しています。それに比べると、嶺北では生息数が少ないものの、最近では増え始めているようです。足羽山にも何頭か野生個体が棲み着いていますが、いずれもオスで群れから離れてやってきた「ハナレザル」と考えられます。

人間とニホンザルの関わり方は、時代とともに大きく変化してきました。近年は生息数の増加による被害の拡大傾向が見られますが、過去には過度な狩猟などが原因で地域的な絶滅が起きたこともあります。いかにニホンザルと共存していくかは、人間と野生動物との関係を考える上で重要なテーマの一つとなっています。

(学芸員 鈴木聡)



サルにちなんだ動植物



サルボウ



写真／サルボウ（当館所蔵）

アカガイの仲間で、「赤貝」として売られていることもある食用の二枚貝です。赤貝という名の由来となった軟体部の赤い色は、血液中の酸素を運搬する色素（呼吸色素）「エリトロクルオリン」の色によるものです。エリトロクルオリンは、脊椎動物の赤血球に含まれるヘモグロビンと同じく鉄を利用しており、多くの軟体動物が持つ呼吸色素「ヘモシアニン（酸素と結びつくと青色になる）」よりも高い酸素運搬能力を持ちます。そのため、水の流れが悪いなど酸欠になりやすい環境でも生息することができます。

サルボウを漢字で書くと「猿類」。貝殻の膨らみを、サルが食べ物を口に含んで頬を膨らませた様子に見立てたものだとも、軟体部の赤い色がサルの頬のように赤いためだとも言われています。（学芸員 有馬達也）

モンキーフェイス星雲



写真／モンキーフェイス星雲
（2015年11月3日 福井市城戸ノ内町にて撮影）

まるで猿の横顔のように見えることから、モンキーフェイス（猿の顔）星雲と呼ばれています。オリオン座にあり、地球から3,300光年離れた宇宙に漂っています。見かけの大きさは満月と同じぐらいありますが、暗いので双眼鏡や望遠鏡を使わなければ見つけることはできません。

また、この星雲が光るしくみは、身近な照明「蛍光灯」と同じです。遠く宇宙のことですが、星雲と蛍光灯が同じしくみで光っていると思うと、少し宇宙を近く感じませんか？

さらに、オリオン座には、望遠鏡を使わなくても見つけられる星雲「オリオン星雲」もありますので、「星雲を見たい!」と思われた方は、ぜひ調べてみてください。（学芸員 加藤英行）

サルスベリ



写真／サルスベリ
（2015年11月1日 福井市足羽山にて撮影）

中国南部原産のミソハギ科の落葉小高木で、公園樹や街路樹として各地に植栽されています。花の色にはピンク色や赤色、白色、紫色などがあり、7～10月にかけて枝先に美しい花が咲き続けます。花の咲く期間が長いことからハクジツコウ（百日紅）の別名があります。淡い赤褐色の薄い樹皮は剥がれやすく、樹皮が剥がれ落ちた所に白い木肌が現れ、幹はまだら模様になります。和名は、幹がとてもなめらかなので、木登りの得意なサルでさえも滑り落ちてしまうということが由来となっています。（学芸員 中村幸世）

コフキサルノコシカケ



写真／コフキサルノコシカケ
（2015年11月18日 福井市北山町にて撮影）

広葉樹の枯れ木や生木上などに発生するマンネンタケ科の堅いキノコで、年々生長を続けしばしば50cmを超えるほど大形になります。柄はなく、かさは半円形、低い山形で厚さ10～20cm、表面は大量に放出される胞子に覆われてココアの粉をまぶしたようになります。木材を分解する木材腐朽菌の一種で、幹の心材を白く腐らせます。和名は、ココア色の粉を吹き、サルが腰掛ける椅子のような形をしていることが由来となっています。癌に効果があると言われ、漢方薬や民間薬として利用されています。（学芸員 中村幸世）

冬に出会う野鳥たち

柳町 邦光

(日本野鳥の会福井県顧問・福井市自然史博物館協力員)

里に初雪が降ると、見られる野鳥にも変化が出てきます。雪が降る前には歩く先々で聞こえた野鳥の声も、初雪で生息環境が大きく変化したため、雪の無いところへ移動してしまった野鳥も多く、シーンと静まり返ったようです。でも、耳を澄ませば微かな声も聞こえてきますので、その野鳥たちをじっくり探してみましょう。雪で下草などが隠れ葉が落ちて枝だけになった木々ではとても見つけやすいのです。そんな冬の足羽山で元気に生きている野鳥たちを紹介しましょう。

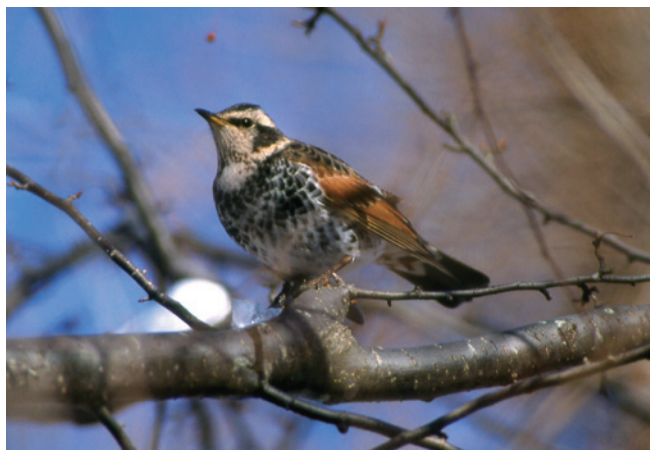
見られる野鳥の公式：【冬の野鳥】＝【留鳥】＋【冬鳥】

※留鳥＝同じ場所で繁殖し子育てもするので一年中見られる（ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、エナガ、ヤマガラ、コゲラ、イカルなど）。

※冬鳥＝晩秋に北国から渡って来て冬を過ごすので、早春まで見られる（ツグミ、ウソ、ルリビタキ、アオジ、アトリ、シロハラ、ベニマシコなど）。

これらの代表的な種について探すポイントを説明しますが、姿や色調・声までは紙面の関係上説明できませんので、お手元の図鑑で確認していただきたいと思います。

- ヒヨドリ＝木々の梢で「ピーピー」と騒がしいほど鳴いていて、群れで飛んでいるのですねすぐ見つけられます。足羽山ではカラス類と並んで最も多い種と思われます。
- メジロやシジュウカラ、エナガなど＝数羽の群れで梢から梢へ枝移りしながら餌を探していますので、目先の枝に来たら



ツグミ

ゆっくり見てください。

- コゲラ＝幹や枝を縦に移動しながら虫を探しています。ときどき「ギィー」と鳴くので、声が聞けたら近くの桜の木を探してください。意外と近いので感激ですよ。
- ツグミ＝枝先に止まって「クィ、クィッ」と鳴くので見つけられるでしょう。二代目「福井県の鳥」ですので是非探してください。同じ枝先にはアトリがいるかも？
- ウソ＝早春のころには膨らんだ木の芽を啄んでいます。目の前の枝に来たら赤い頬がとても印象的です。桜の芽を食べても春にはきっと満開になるから心配しないだね。
- ルリビタキ、アオジ＝遊歩道脇の崖のようなところで、雪の少ない低木の茂みにいることが多いです。か細い地鳴きが聞けたら鳥の動きを探しましょう。
- ベニマシコ＝明るい開けた林でときどき見られる赤い鳥で、草丈の穂や小枝の先で「ヒッヒッ、ヒホホッ」と鳴きます。「はれひより」の駐車場や植物園などで見られる可能性が高いです。こんな赤い鳥が見られたらきっと胸キュンになりますよ。



雪の足羽山で可愛い野鳥たちに出会えると、私たちも元気がもらえるようでとても楽しいですよ。さあ、冬の足羽山へ出かけてみましょう。

左：ウソ
右：ルリビタキ

《あとがき》

もうすぐ寒さの厳しい冬本番が始まります。雪が降り積もり一面に銀世界が広がると、足羽山は静寂に包まれますが、一方で野鳥の元気な姿が目にとまりやすくなります。今号では、冬に見られる野鳥と12月19日から開催する干支展「申」について取り上げました。ツグミやウソなど観察にお勧めの野鳥のほか、ベニマシコという「サル」に因んだ野鳥なども登場します。底冷えする寒さの中、外に出るのがつい億劫になりますが、冬の足羽山を散策して野鳥の可愛い姿を見つけてみませんか？ (中村)

《交通案内》

【電車】

●福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

【バス】

- 京福バス：清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登る)、不動山口バス停(藤島神社登る) 各徒歩10分
- コミュニティバスすまいる：西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩10分

【徒歩】JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
休館日 ●月曜日(祝休日は開館)、国民の祝休日の翌日、年末年始
入館料 ●高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、障害者および付添の方は無料

